



道の駅に訪れた利用客にヒマワリの種やキーホルダーなどを配る南富良野高の生徒

交通安全 ヒマワリの種配る

南富良野高生と富良野署啓発

【南富良野】夏の交通安全運動の初日と飲酒運転根絶の日にあたる13日、南富良野高ボランティア同好会と富良野署は、道の駅「南ふらの」で、全国的な交通安全啓発活動「ひまわりの絆プロジェクト」の一環として、ヒマワリの種を観光客らに配った。

同プロジェクトは、2011年に京都で交通事故により亡くなった男

児が育てていたヒマワリの種を引き継ぎ、全国で花を育てることで、交通事故の悲惨さや命の大切さを伝える取り組み。生徒や署員ら9人は、種が入った袋や反射材付きのキーホルダーなどを手渡した。2年の猪口真菜さん(16)は「命のありがたみが伝わり、交通事故が減ってほしい」と話した。

(鹿野海人)